

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくら八千代台教室			
○保護者評価実施期間	2025年8月1日		～	2025年9月8日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	62	(回答者数)	55
○従業者評価実施期間	2025年8月1日		～	2025年9月8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数)	13
○事業者向け自己評価表作成日	2025年9月15日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童が楽しく通える教室の雰囲気	①療育方針の徹底 ・「怒らない・叱らない・褒めて伸ばす」を朝礼等で繰り返し職員へ伝達 ②楽しいプログラムの企画・実践 ・ルーティンプログラム、集団プログラムの定期的な更新 ・子供の参加状況に応じた内容の組替、修正 ②子供のやる気を引き出す取り組み ・昼食：ピカピカ賞を提供 ・褒める：ヒーロー賞を提供	①職員の療育技量の向上 ・こぼん本部との連携強化、各種研修を実施（こぼんカレッジ等） ・職員が療育に集中できる環境の整備（IT化、システム化、集中化） ・職員の自発アイデアの活用（まずやってみる、やりながら改善を図る）
2	保護者との密な情報交換	①連絡帳を通じたきめ細かな対応 ・教室内の様子を写真とコメントでわかりやすく伝達 ・保護者コメントには漏れなく丁寧に対応 ②連絡しやすい多様なチャネルを用意 ・HUG、公式LINE、メール、電話、送迎時などに対応 ③職員間情報共有の仕組化 ・グループLINEで漏れなく共有	①保護者の連絡先を複数把握 ・父母いずれかしか登録が無いケースが存在 ・最低2つ以上の連絡先情報を把握、管理 ・何かあればすぐに連絡できる体制を整備
3	子どもの適正に応じた適切な支援	①アセスメントの高度化 ・AIアセスメントツール導入 ・児童毎に5領域毎の発達状況を可視化 ②個別支援計画に基づく支援 ・アセスメント結果に基づいた個別支援計画を策定 ・個別支援計画に沿った振り返りを毎回実施 ③集団療育における個別アプローチの実施 ・児発、放デイ毎に（平日）毎日定例会を実施 ・個別児童毎の課題に対するアプローチ方法を討議	①こぼんの理念（下記）の共有 ・「すべての答えはお子様の中にあります」 ・「可能性をみつけて差し上げる集団になろう」 ・「集団療育における個別的支援を目指す」 ②こぼんの理念（上記）の浸透、推進 ・日々の定例会を活用、PDCAサイクルを早回し

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門的支援の対象児童・内容の拡充が求められている	・専門的支援計画作成の負荷が高い ・専門的支援実施時間の確保が難しい	①専門的支援計画作成ツール活用 ・導入済みツールを活用、専門的支援計画作成負荷を低減 ②集団プログラムの見直し ・専門的支援にもつながる集団プログラムを企画 ・30分以上の専門的支援を小集団で実施 ・ことば（言語・コミュニケーション）から着手
2	子育ての不安や悩みを共有できる場が限られている	・通所児童に対する療育の質向上に注力 ・保護者へのベアトレ検討も、実施難度高く見送り ・連絡帳等の情報交換だけでは充足できないケースあり	①保護者参観の開催（3か月に1回程度） ・保護者に支援場面の観察や参加等の機会を提供 ・特性を踏まえた関わり方等に関して相談援助を実施 ②保護者個別相談会の開催（毎月） ・全保護者へ実施日程をご案内 ・希望保護者と個別相談会を開催
3	オープンな議論が生まれにくい職場環境	・「療育に答えは無い」ため、異なる意見が職員毎に発生 ・自信が無く発言をためらうor職員間での衝突が発生 ・職場の風土改善だけでは限界	①ハウスルールの整備 ・ハウスルールの正とした、共通の判断軸を設定 ・ハウスルールの主語とした、オープンな議論を醸成 ・ハウスルール自体の見直しも、適宜実施